

のを携へ歸られたるが同校職員ハ賢き邊にて斯くも美術に御心を懸けさせらるゝハ有難きことなりとて何れも感涙を流し居ると云ふ

(明治二十四年十月九日『国会新聞』)

## 関連事項

### ① 官制(東京美術学校)

#### ○官制

勅令第百三十七號全第四百四十一號抜抄(明治廿四年七月廿四日發布)

#### 東京美術学校

一東京美術学校ハ繪畫、彫刻、建築、及美術工藝ノ技術者又ハ普通ノ圖畫教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

學校長	一人	奏任
教授	十一人	奏任
助教授	十人	判任
書記	五人	判任
技手	二人	判任

(『東京美術学校一覽從明治廿四年至明治廿五年』)

### ② 両大臣の楠公像視察

明治二十四年九月二十四日、松方総理大臣、大木文部大臣の一行が来校し、楠公銅像木型の製作を視察した。新聞はこれを次のように報じている。

#### ○兩大臣楠公の彫像を視る

今度宮城正門前に建設になるべき楠公乗馬銅像の木彫原形楠公像

は有名なる彫刻家石川光明、高村光雲の兩氏が其像を後藤貞行氏が其馬を擔任にて既に其木取り丈け出来せしに付き松方総理大臣大木文部大臣は辻次官大島秘書官等を隨へ昨二十四日東京美術学校内の右彫刻場に臨み其の模様を檢視せり

(明治二十四年九月二十五日『東京新聞』)

### ③ 日本青年繪画協會の発足

明治二十四年十一月二十一日、上野公園桜ヶ岡日本美術協會列品館で日本青年繪画協會の発会式が行われ、岡倉校長は会頭に推戴された。同日より三日間、臨時研究会(二百余点を出品審査)も開かれた。当時の事務所は深川区清住町二十五番地川端玉章方である。

同会は川端玉章、川辺御橋門下その他の青年画家(三十歳以下)によつて結成されたもので、尾形月耕、寺崎広業、梶田半古、村田丹陵、山田敬中、小堀鞆音、福井江亭、島崎柳塲等々、本校以外にあつて岡倉校長の方針に共鳴し日本画革新の道を歩もうとする青年たちの道場となつた。同会の共進会は明治二十五年の第一回(十月十五日)三十一日、於本校々友会俱樂部)の後、毎年開かれたが、岡倉校長は褒賞授与式に臨み、作品評や演説を行うのが常であり、青年たちの指導に熱意を燃やした。同会の月次研究会では橋本雅邦、川端玉章、川崎千虎などを判者とする絵合えあひの催し(明治二十七年九月二十三日第一回)なども行われた。

### ④ 美術学校予備校(美術講習所、共立美術学館)

東京美術学校の存在が一般に知られるにつれて志望者も増加し始

め、明治二十四年秋頃の諸新聞がこの傾向について報道しているが、その中の一つ、『中央新聞』（同年十月二日付）には

○新學生の方向 兩三年前迄は雲霞の如く都下に群り來る學生の七八は大抵法政の二學科を脩めんとし就中法學生其の多きを占め従つて此種の學校は何れも繁昌せしが近頃新たに上京せる學生の目的は法政學に志すもの其數を減じ却て美術學生等増加し上野の美術學校は勿論私立に係る美術講習所等も大に繁昌せり只醫學生は從來に少からざりしが近頃は一層多きを加へたるが如しと

と記されている。

右文中の美術講習所とは明治二十四年夏頃本郷区根津片町二十四番地に設立された私立學校で、東京美術學校志望者およびそれ以外の美術家志望者の教育を目的として同年九月十七日に授業を始め。教師は左記のとおりである。

繪画科 監督 狩野 友信 （東京美術學校 繪画科助教授）

教師 広川栄三郎 （同校特別の 課程卒業）

彫刻科 監督 山田 鬼斎 （同校彫刻科 履教員）

教師 竹内 二郎 （同校特別の 課程卒業）

学科授業は手嶋某（のち黒田某）の担当であった。なお、明治二十五年九月発行の『明治宝鑑』（松本徳太郎編）には同校のことが次のように紹介されている。

美術講習所 本郷根津片町

普通學、臨畫、新按、臨摸、摸刻、彫刻、彩色法、用器畫法、

修業豫備科一年専門三年、束修一圓、月謝一圓

同校出身者の東京美術學校合格率は高く、明治二十五年八月の入試の際は二十九人の受験生のうち二十三人が合格し、しかも第一席から第五席までは同校出身者が占めた。また校舎の二、三室は東京美術學校生徒の寄宿舎にあてられており、白浜徹、柏尾轍三郎、新納忠之介、菱田春草、天草神来、望月銃三郎、桜岡三四郎、香取秀真、天岡均一らはここに寄宿したといわれる。

明治二十七年三月に至り、同校は共立美術學館と改称された（同校出身者千頭庸哉履歷書による）。それは、東京美術學校卒業生の団体である保有会が結成され、その教育部の事業として予備校を設立することになり、本郷区森川町一番地字仲通二百四十一号に共立美術學館が開かれた結果、これに吸収されたのである。

現在、東京都公文書館には左記の共立美術學館設置願が所蔵されている（規則書、教員履歷書は省略。『横山大観と近親の人々』横山大観記念館監修・長尾政憲著。昭和五十九年、鉦鼓洞。に既出）。

今般別紙規則第壹條ノ主旨ニ依リ府下本郷區森川町壹番地字中通ニ於テ共立美術學館ノ名稱ヲ以テ學校私設致度此段奉願候也

明治二十七年四月廿八日

本郷區湯島新花町九十七番地

設立者館主 横山秀麿

麿秀

東京府知事 三浦安殿

前件願出ニ付奥印候也

東京市本郷區長 鴨池宜之

東京市  
本郷區  
區長印

一、生徒定員

百五拾名

一、教員々教

五 名

一、開校時限

午前八時 日ノ長短ニヨリ之ヲ參酌ス

一、教科用器具

繪画用

画手本 假張板 画筆 刷毛 木炭 文鎮 筆洗 硯

繪具皿等

彫刻用

彫刀 材木 砥石 椀木 鉋 鋸等

教科用書

日本通史 近世中地理学 支那帝国史 萬国地理

數學教程 古文眞寶 徒然草 芥子園画傳

収入

一金百五拾円也 生徒百五十名月謝

一金拾五円也 同上 校費

合計金百六拾五円也

支出

一金八拾五円也 教員五名俸給

一金五拾円也

雜 費

一金參拾円也

創業費へ償却

合計金百六拾五円也

以上ハ定員百五拾名ニ對スル概算ナリ

尚定員未滿ナレハ其収入額ニ順シ支出スルモノトス

以上のように共立美術学館は東京美術学校第一回卒業生横山秀磨（大観）を「設立者館主」とし、保有会監督のもとに設立され、二十七年四月三十日に東京府知事の認可を得た。大観は教員を兼任し、他に竹内次郎、小和田武司、斎藤謙、島田友春が教員に就任。ただし、大観は間もなく同校を退き、代わって島田友春が館主となった。板谷波山も一時教員を勤めた。創業当初から盛況で、二十七年六月ごろには生徒数八十余名に及んだと『錦巷雜綴』（第二卷）に記されている。しかし、明治三十一年春の東京美術学校変革の際には同校も影響を蒙ったらしく、同年末に島田館主から日本画会へ経営が委ねられ、同会の望月金鳳が校長となっている。

なお、『東京美術学校一覽（從明治廿六年至明治廿七年）』（明治二十六年十一月発行）所載の卒業生岡本勝元（秋石）の勤務先が東亜美術学館と記されており、これも美術学校予備校の一つであったと考えられる。